

いわゆる「8050問題って？」—どうする8050-1

みなさんはじめまして。

浜松市北区にある精神科診療所、ぴあクリニックの上久保真理子と申します。当院では、外来診療のほか
に訪問での支援を行っております。そこでは、統合失調症など重度の精神障害がある方のお宅に伺ってさ
まざまな支援をしています。私は精神保健福祉士として、その訪問部門で働いています。

このささやかな文章では、私たちのチームでも、日本全体でも大きな問題となっているいわゆる8050
問題について、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。今回は、いわゆる8050問題と「問題」と
なったきっかけについて、簡単にご説明いたします。もうすでに知ってるよ!! という方も多いかと思
いますが、まずは同じような問題意識をみんなで持つために、ひとまずここから始めさせてください。

「プロフェッショナル」勝部さんの発見



8050問題とは、「80代の親が、自宅にひきこもる50代の子どもの生活を支え、経済的にも精神的
にも行き詰まってしまう状態のこと」と一般的に言われます。Wikipediaによれば、この言葉を最初に使
ったのは、大阪府豊中市社会福祉協議会の勝部麗子さんだそうです。2014年、NHKの「プロフェッ
ショナル 仕事の流儀」で勝部さんの「仕事」が紹介されました。いわゆるごみ屋敷と呼ばれるようなお宅
に臆することなく通い、最初はお住まいの方に拒絶されながらも、丁寧に少しずつ信頼関係を形成する、
そのうえで近隣の住民も巻き込んでその方の困りごとをみんなで解決していく—そんな勝部さんのお姿
に感動された方もおられることでしょう。

地域で孤立したり、困りごとを抱えたままなす術もなくおられたりするご家庭に、長らく足しげく通っ
ておられた勝部さんだからこそ、この問題を把握でき、「8050」というわかりやすい言葉で発信できたので
しょうね。

「他人事とは思えない」(三浦友和さん)8050



さらに、8050問題のリアルを世に知らしめたのは、林真理子さんの『小説8050』とされています。
「週刊新潮」で連載されました。この本を読まれた俳優の三浦友和さんが新潮社のWebサイトで「描写
がリアルでとても他人事とは思えない。これと同じことが自分にも起こったら、いや、起こっていた可能
性もあったはずだ—」といった書評を綴っておられます。

現在の日本で、この浜松でも大きな問題となっている8050問題。関心はあったけれどもなんとなく不安
で避けてきた・・・そんな方も多いことかと思えます。でも、だからこそ、みなさんとこの問題について、
学んで…もしできたら、どうしていけばいいのか、までを一緒に考えていければと思います。

これからしばらくの間、おつきあいのほど、よろしくお願いいたします。

ぴあクリニック 上久保真理子

理事会の報告 —令和4年12月から令和5年3月 —

家族会では12月4日(日)福祉交流センター52多目的室で「親睦会」を実施。25名が参加しました。家族会としても2年余にわたるコロナ禍で様々な活動制限がありましたが、徐々に「友の会」活動を復活し皆様方との親睦、交流の機会を作っていきたいと思います。また12月、精神保健法等改正案が国会で可決し、特に医療保護入院のあり方等についての議論が行われています。同時に精神科での虐待事案、行動制限の事例等を新聞紙上で報道されることが多くなってきています。理事会においてもこれらのことについて関心を持って、精神保健医療福祉に関する動向について学習をしていきたいと考えております。また当事者会「結の会」は当事者による自助活動として支援していく方針ですので、参加してみようと思う方はご連絡下さい。

B型事業所「つばめ創社」は1日平均利用者数が20名を切る状況になっています。理事会としてもこの状況への対応が必要と判断しています。また、非常勤職員の退職に伴う新職員の採用が出来ました。次年度に向けて、従来の下請け作業に加えて自主製品の開発とその拡大に注力してまいります。

全体の決算状況ですが、12月から年が変わり2月までは欠損はなく推移してきています。2月、3月には令和5年度に向けての事業計画と予算を作成する時期になります。早いもので4月から新年度が始まります。理事会としては、現在、精神保健医療福祉を取り巻く環境が大きく変化していく状況であると認識し、家族会、つばめ創社ともに前向きに歩んでいくよう努めてまいります。

公認心理師の晴耕雨読



月1回行われている「家族ピア学習会」では、集まれた家族の方々は、まず近況を語り、その日に相談したい事柄を出してもらいます。周りの家族の方々は、相談者の状況を理解し、それに対してどうしたらよいのか、良い悪いは別にして、色々な思いついた案を出してもらいます。

例えば、なかなか意欲が出ず、食事・着脱・排泄などの身辺自立はやれているが、それ以外の掃除・洗濯・料理・買い物、外出などはしないという人の場合、どういう対応がとれるのでしょうか。

①本人がどうなりたいかを聞く、②今できていることを書き出す、③やりたいことがないか探す、④その日にやったことの楽しみや達成感の程度を数字にして記録し検討する、⑤本人が同意するならば一緒に体験する場に行く、などの対応策を考え、各々の長所・短所を検討してみます。そして、実施できそうな対応策を試みて、その結果を振り返り、効果があればそれを継続してみます。

同じような体験をされている家族の方々から参考となる対応策が出て相談者のヒントになるかもしれません。

(高柳弘行)

令和4年12月～令和5年3月上旬までの活動報告

12月11日(日)第8回理事会。明生会事務所にて。参加者、理事7名。

12月13日(火)統合失調症家族教室(浜北会場、第2回)。浜北文化センターにて。担当者3名参加。

12月18日(日)当事者会(結の会)。明生会事務所にて。当事者5名、家族2名、参加。

12月26日(月)西部地区家族会交流会。掛川市生涯学習センターにて。3名参加。

令和5年

1月8日(日)第9回理事会。明生会事務所にて。参加者、理事6名。

1月15日(日)当事者会(結の会)。明生会事務所にて。当事者7名、家族4名、参加。

1月22日(日)第9回家族ピア学習会。武道館会議室にて。参加者13名。

1月24日(火)統合失調症家族教室(浜北教室、第3回)。浜北文化センターにて。担当者3名参加。

2月12日(日)第10回理事会。明生会事務所にて。参加者、理事6名。

2月19日(日)当事者会(結の会)。明生会事務所にて。当事者7名、家族4名、参加。

2月28日(火)統合失調症家族教室(浜北会場、第4回)。精神保健福祉センターにて、交流会。35名参加。

3月7日(火)統合失調症家族教室第2回運営会議。精神保健福祉センターにて。参加者、担当者3名。

3月12日(日)第11回理事会。明生会事務所にて。参加者、理事7名。

「ひきこもり講演会」に参加しました。

～家族・支援者へ 当事者からのメッセージ～と題されて、自らひきこもりを経験した林恭子氏が体験談を交えて講演をしました。定員が100名との事でしたが、浜北文化センターの大会議室がほぼ一杯で関心の高さがうかがえました。

当事者ということで説得力がありましたし、声かけの仕方など精神疾患の身内を持つ

私たちにもいろいろ参考になることも多かったです。障害があるなしに関わらず生きにくい世の中ではありますが少しでも前を向いて行きたいと思った次第です。



林恭子氏

(鈴木智子)

今後の活動予定

3月26日(日)第11回家族ピア学習会。明生会事務所にて。13:00～15:00。参加費300円。

4月9日(日)第1回理事会。明生会事務所にて。参加者、理事。

4月16日(日)当事者会(結の会)。明生会事務所にて。13:00～15:00。

4月23日(日)第1回家族ピア学習会。浜松市武道館会議室にて。13:00～15:00。参加費300円。

5月14日(日)第2回理事会。明生会事務所にて。参加者、理事。

5月21日(日)当事者会(結の会)。明生会事務所にて。13:00～15:00。

5月28日(日)第20回通常総会開催。福祉交流センター52多目的室にて。詳しくは後日お知らせ。

6月11日(日)第3回理事会。明生会事務所にて。参加者、理事。

6月18日(日)当事者会(結の会)。明生会事務所にて。13:00～15:00。

6月25日(日)第2回ピア学習会。会場は未定。13:00～15:00。参加費300円。

令和4年度第2回「地域ふれあい講演会」が開催されました

テーマ 訪問診療活動の実践から伝えたいこと・・・

—— 何よりも“出かける医療”が必要 ——

講師に「ぴあクリニック院長」の色川大輔先生をお招きしました。何らかの理由で日常生活等に問題を抱えている障害者、その家族に対して医療機関や行政が訪問支援することの大切さをわかりやすく話して下さいました。しかし、なかなか簡単ではありません。訪問されるのを嫌がる当事者もおられるし、病気の治療だけではなく日常生活（買物、掃除等）や就労支援など様々な問題があります。そもそもそういった支援をしてくれる病院はまだまだ少ないと思われれます。もっと身近に支援を受けられるようになると思います。

また、向精神薬と精神症状についてもお話下さいました。薬は精神疾患に対して必ず必要だと思いますが副作用など難しい事が多いですね。特効薬が何か見つかることを願うばかりです。



家族会及びつばめ創社へのご寄付に感謝申し上げます。(R4.12~R5.3)

- | | | | |
|------|--------------------------------|----|---------|
| ○寄付金 | 家族会運営 | 3名 | 70,000円 |
| ○物品等 | 会員、地域の方から書籍、アルミ缶、古新聞、段ボール、雑紙、等 | | |

「ボランティア活動保険」のご案内

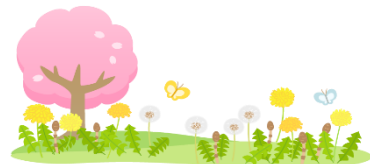
～もしもの時の安全のために～

期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日（1年間）

保険料 **年間350円**（基本プラン）

補償内容 ケガや損害賠償責任を補償

締め切り **3月29日（水）午後3時まで**



※NPO 法人明生会として、団体で申し込みます。希望される方は、申込書に氏名を記入の上、必ず**保険料を添えて**事務所まで申し込んで下さい。（後日カードをお渡しします）

当番で保険料を預かった場合は、簡易金庫に保管して下さい。よろしく申し上げます。

（担当 鈴木陽子）

※前号（第42号）の活動予定の曜日まちがいが多々ありましたことをお詫びします。大変失礼しました。

編集後記・・

コロナが終息しつつあり第5類の扱いになるようですが、まだまだ心配なところではあります。

今年度は皆さんといろいろな活動にご一緒出来るとうれしいです。よろしく申し上げます。（鈴木智子）

